



人にも自然にもやさしい中野本郷小の子

中野本郷

令和5年度 2月号

令和6年2月1日

中野区立中野本郷小学校

校長 福山 広伸

児童数 331名

心を動かす体験活動

副校長 井上 江見子

朝晩は冷え込み、厳しい寒さを感じます。一方で、この冬は暖冬と言われ、グリーンガーデンの梅の木は、1月20日過ぎに満開でした。大寒に梅の花が咲くとは、早いですねと主事さんと話したものです。

最近の本校の教育活動を紹介します。12月の学校公開は「みのりの日」と称し、生活科・総合的な学習の時間の学習成果を発表する日でした。5年生の教室では、グループに分かれて課題解決に取り組んでいました。その中に、地域の方が混ざり、贅沢にもグループごとに1名、地域の方がゲストティーチャーとして入り、子どもの質問に直接答えてくださいました。昔の神田川の様子、鍋横商店街のことなど、知りたいこと、インターネットや本で調べて分からないことも、有り難いことに目の前の方に聞けるのです。直接対話して学ぶ良さを味わっていました。

1月の学校公開には、なべよこクラブ、ことぶき鍋横会の方をお迎えして、1年生に昔遊びを伝授いただきました。けん玉、おはじき、メンコなどです。グリーンガーデンの竹を使って主事さん手作りの竹馬にも挑戦しました。別の日に校庭で竹馬に何度も挑戦していました。「先生、ちょっと持っていてくれますか。」「歩けた!」「少しだけできた!」目を輝かせて遊び、できるようになる姿は、とても微笑ましいです。体験活動を通してやる気スイッチが入り、心が動いた瞬間です。この後、1年生は生活科の時間に保育園の園児を招待して、一緒に遊び、お兄さん、お姉さんぶりを発揮しました。また、東京メトロの方が来校され、3年生が制服を着せてもらい、仕事をしている様子をパソコンで見て話を聞き、質問をしました。地域に勤務している本物の駅員さんとかかわり、興味・関心をもちました。

4年生は、江東区の英語体験学習(TOKYO GLOBAL GATEWAY)に出掛け、楽しみにしていたのか、行きのバスの中から「My name is〜.」「Where are you from?」など繰り返し英語で話している子がいました。エアポートやホテルフロントがセットされた部屋の中で、多国籍なイングリッシュ・スピーカーの方と英語だけで話す体験をしました。笑顔で話しかける姿や理解しようと聞く姿が見られました。国際社会には多様な人々がいて、英語を話すことで意思疎通ができ、親しみがもてることを経験したことでしょう。

このように、日本の学校では、体験活動の機会があります。文部科学省が、体験活動の教育的意義として「自己との出会いと成就感や自尊感情の獲得」「社会性や共に生きる力の育成」等を挙げています。私はミュージカルが好きでよく観に行きます。その俳優さんの中には、地方出身で東京への修学旅行でミュージカルを観劇して感動し、ミュージカル俳優を目指した方がいるそうです。心が動き、将来の夢に繋がる。実際に見たり聞いたりする体験は、時に、学びの意欲を促進し、刺激的な出会いと感動にあふれています。体験活動を重ねることで、子どもたちにはよい生活を創りだし、成長して行ってほしいです。

2月の生活目標 寒さに負けず体を鍛えよう

今年度は例年よりも早くインフルエンザが流行しましたが、気温や湿度が下がるとウイルスが活発になり、感染症やかぜが流行しやすくなります。運動をすることは、骨や筋肉が発達するだけでなく、抵抗力を高め、病気になりにくくしてくれます。また、外での運動や遊びでからだを動かすことは、「早寝」「早起き」「朝ご飯」といった正しい生活リズムもつながります。

本校では1月15日から2月16日まで持久走月間です。自分で目標時間を決め、目標を達成できるよう自分のペースで校庭を走ります。体力の向上とともに、達成感を味わうことで心にもよい影響をもたらすことがねらいです。2月は、1年のうちで最も寒い時期ですが、持久走月間終了後も、休み時間には外でからだを動かすよう指導していきます。ご家庭でも、お声がけよろしく願いいたします。

(鈴木 莉子)